

恭 敬 而 供 養

端 正 身 殊 妙

以大自在力 王領閻浮提

王子有五百

端正身殊妙

患能廣降伏 一切諸惡敵
其體淨圓滿 見者无厭足

深信諸佛法

恭敬而供養

守護正法藏 受持樂脩習

→図版② 原寸図版

「唐前・写経断簡③」 5～6世紀頃？

今回の写経は、四紙ほどの不完全な断簡であり、書かれた年代は不明である。書風から唐時代以前の書とされる。この写経の後半が、北京の国家図書館所蔵の敦煌遺書BD1474号の『大方廣佛華嚴經』である。書風・書体も同じであり、同一人の手になるものである。また国家図書館には、この経巻の巻末が所蔵され、その断裂した経首は家蔵本と完全に符合する。引き締まった文字構成、転折、左右の払い、起筆の用筆などは、六朝墓誌や碑刻の書体に大きく似ている。北魏後期に書かれた紀年ある写経は、各地の博物館や図書

図版③

C 576年

B 519年

A 513年



若到彼國王必被

安衆生者皆悲

底教欲令一切

回の主図版の写経とは対照的な雰囲気を示している。
この欄に関するご批評、ご意見、ご希望、ご質問などを

お聞かせください。私宛に直接メールで、また編集部宛にお送りいただければ幸いです。
伊藤滋 メールアドレス
mokkei@galaxy.ocn.ne.jp

書道芸術院

平成の群像 (2015)

第66回書道芸術院出品 「為」



田 中 春
仙



人間らしい書

敗戦後の貧困と混乱の日本に帰国し、生きるために必死になつた引き上げ者のひとりでした。大阪に出て子供が学校に通い、少し心の余裕ができる頃、小学校の体育館で大きな大字書練習会があり、恩地先生に出会いました。

書は線の芸術だといわれます。大字書は、

自分で準備したりしていました。何しろ大きく一字を書く書ですから、広い場所が必要なため、体育館や公民館で合同練習会が行われました。この機会で、書くことも、

人の書く姿も見ることができました。その上に人と人のふれあいに伴つて仲間意識が生まれたことが、初期学習の大きな収穫となりました。

それから50年あまり、自分だけの墨色も少し出せるようになつたり、文字の中にある意味「こころ」がわかるようになってきました。「書は人なり」の意味も少しおかるようになりました。この頃は、個性は自然にじみ出で来るようなものかと思つたりしています。「詩情のある書は詩人にならないと書けない」ともいいます。

戦後70年、一生懸命生きてきました。人は生きている者は皆、詩人になつたり哲学者になつたりしています。よき隣人であり、よき家族であり、親でありたい。人間らしい書でありたいと願っています。

ただ大きく書くだけではない。その人の感覚で感情や考え方までもが、一字の中に含まれるものだ。等、色々と教えて頂きました。書展の研究会で先生は毎年テーマをしぱり、目標を決められていました。

字典から素材を選ぶ。筆・墨・紙などを

書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

書道芸術院秋季展・推薦作家展 盛会の裡に終了

あつた。関係各位のご協力に感謝申し上げたい。



平成27年度書道芸術院秋季展は10月6日より11日まで、セントラルミュージアム銀座およびアートサロン毎日での推薦作家展と共に開催され、セントラル会場には財団役員・審査会員選抜作家108名、審査会員候補公募入賞作50点、計158点が展示され、アートサロンには5名が一人7mの壁面に大作を発表し多彩な中に充実した展覧が行われた。

5日の陳列当日にはアートサロンにて5名の出品者を囲んで毎日新聞社・毎日書道会からの来賓、院幹部役員等が集い開幕を祝った。

6日にはセントラル会場2階ホールにて秋季菊花賞、秋季俊英賞の表彰について作品研究会が200余名の参加者が集い開催、推薦作家・秋季菊花賞受賞者の作品を中心に意見発表講評などが行われた。

当日6時から会場を銀座東武ホテルに移して祝賀懇親会が賑やかに開催された。ご来賓約50名に秋季展出品者併せて180名余の参加で盛会であった。会期中は会場当番など出品者各位のご協力で無事終了した。参觀者が100名余で

日本現代の書パリ展開催

恒例となった「日本現代の書パリ展」はSHO1、SHO2に続き3回目が10月21日より来年1月11日まで約4か月間、パリ市内のフランス国立ギメ東洋美術館にて開催される。今回展は毎日書道会顧問代表、理事監事のほか選抜作家を含め42点が出品され、併せてフランス現代前衛作家（書的絵画）3点も展示され日仏合同展となつた。

展覧会開催に合わせ書道芸術院訪仏団（辻元大雲團長）が現地を訪問し、開幕セレモニー、席上揮毫、ワーキングなどを担当した。団員は下谷洋子・小竹石雲・3名の出品者に宮城、岡山などから計13名が参加、石飛博光・船本



秋季展風景

芳雲・赤平泰処、更に学習院大学教授でフランス文学者・詩人の吉田加南子さんらもご家族と共に参加され総勢20名の団となつた。

10月20日午前羽田空港発、同日夕刻パリ着（時差の関係）、開幕前夜祭。21日午前、ギメ美術館別館にて島谷弘幸本展監修者による現地大学院生対象の書についての講義、下谷洋子氏の日本かな作品席上揮毫が披露された。午後、パリ国立図書館にて「化度寺碑拓本」「王羲之十七帖」などの特別参観が今回の訪仏団員のみに公開された。夕刻ハイアットホテルに100名余の日本からの参觀者が集い祝賀会が開催された。朝比奈毎日新聞社長、日本大使館からもご来賓として参加していただきた。

22日、ギメ美術館研修室にて午前小

学生対象の書道体験学習、午後親子教室（各回15名定員）にて行われ、辻元下谷・小竹3名およびパリ展実行委員の永守蒼穹、山中翠谷、丸尾鎌使の協力を頂き賑やかに開催された。参加者は初めての書道体験に大喜び、毎日書道会糸賀専務理事、西村事務局長なども参加していただき盛会であった。

23日、パリからウイーンへ。2017年に創立70周年を迎える書道芸術院の海外

展を開催する予定で、オーストリア日本大使館の全面的なご協力をいただき会場候補の折衝をかねて訪問した。ウイーンでは四国支局の本院参与会員谷脇梅翠先生を中心とする書道交流が18年間継続していただいてお

り、この実績を踏まえての記念事業を展開させる予定。会場候補の「世界民族博物館」が大掛かりな改修工事を進めており、工事期間によりまだ流動的であるが、来春くらいには実施の日途をつける予定である。

夕刻ウイーン市内の定評ある居酒屋にて大使館関係者、毎日新聞ウイーン支局長をお招きして懇談した。

25日午後ウイーン発、26日午後羽田空港に無事帰国。



書道芸術院企画委員会開催

本年度より開設された企画委員会の2回目が10月7日、秋季展会期中に開催され、下谷洋子座長を中心懸案の秋季展会企画内容、単位認定講習会などに絞って検討を行つた。検討内容等は今後理事会にて報告され改めて理事会にて具体化を検討する。

漢字(二)

竹本龍汀

かな(二)

小島孝予

書道に志して最初に思ったことは、「書とは何か」「書は芸術か」「何の為に書くのか」という素朴な疑問だった。大学時代、歴代の古典を臨書する傍ら、疑問を書論、芸術学、美学、心理学に問うた。「芸術とは人の心の機微を描き出したものであり、古典は時代においてより良いものを目指した心の文化史である。芸術足り得る書は人の心に夢と安らぎを与えてきた」等々、大学時代に疑問を払拭した。以来、先人の心に触れ精神性を高め、多様な技法を学び創作に生かすべく日々の書活動の大半を臨書に当てている。臨書の際は、

「慈眼視衆生 福寿海無量」



「光照一隅」



竹本龍汀書

の心をイメージして書いた。左は一隅を照らす僅かに差し込む光の流れを表現した。

書風の異なる複数の法帖を同時に学んで、創作が单一原帖の透けて見える単なる倣書ではなく、根底に複数の古典の融合を感じられる気品のある作品になる様に心掛けている。

又、古法帖の真跡や書展から直接受けける性情と現代感覚を根底に置き、臨書を感覚で学び直し、原帖から受けた感興をより増幅して、性情豊かで現代感覚と個性に溢れた創作に結びつくように努力している。今回の半切は二点ともお寺に寄贈した

作品で、心の趣くままに書き進んだ破体書である。右は蓮の花の上の観音様の姿

と慈眼と福寿

かなは生活の中にしっかりと根付いているのだ。もっと身近に、もっと気楽に「かな書の世界」を感じてもらえたなら!! そんな願いを胸に、日々精進・修行の私である。

この作品は平成26年玉松会展の出品作である。以前に訪ねたお宅の庭先に、まつ青な葉の陰から一際輝く柚子の鮮やかな黄色があまりにも美しく、心に焼きついた。その情景を思い浮かべ描いた作品である。2行目の渴筆を見せ場」とするため、1行目は連綿にて控え目でさりげなさを出した。そして余白を右上と左に大きくとることで2行目にインパクトを与え、自然で大らかな流れがより表現できるよう、心がけた。



平成26年 玉松会展出品作

小島孝予書

書道に志して最初に思ったことは、「書とは何か」「書は芸術か」「何の為に書くのか」という素朴な疑問だった。

大学時代、歴代の古典を臨書する傍ら、疑問を書論、芸術学、美学、心理学に問うた。「芸術とは人の心の機微を描き出したものであり、古典は時代においてより良いものを目指した心の文化史である。芸術足り得る書は人の心に夢と安らぎを与えてきた」等々、大学時代に疑問を払拭した。以来、先人の心に触れ精神性を高め、多様な技法を学び創作に生かすべく日々の書活動の大半を臨書に当てている。臨書の際は、

書風の異なる複数の法帖を同時に学んで、創作が单一原帖の透けて見える単なる倣書ではなく、根底に複数の古典の融合を感じられる気品のある作品になる様に心掛けている。

又、古法帖の真跡や書展から直接受けける性情と現代感覚を根底に置き、臨書を感覚で学び直し、原帖から受けた感興をより増幅して、性情豊かで現代感覚と個性に溢れた創作に結びつくよう努めている。まさしく、かなのが広がっていく。しかし現代はパソコンやスマートフォンの普及によって「字を書かない」まで「書けない」時代になってしまったようと思う。だからこそ書を学びたいと願う人もあり、優美なかなに憧れるが「読めない」と敬遠されてしまうことも…。しかし身のまわりを観てみると、和菓子のかけ紙やお店の看板等、

平安時代に日本で生まれた「かな」。かなは「文字」一文字が大変美しく、そして「連綿」によって、さらにその美しさを高めている。まさしく、かなのは連綿であり、雅な世界が広がっていく。しかし現代は

かなは生活の中にしっかりと根付いているのだ。もっと身近に、もっと気楽に「かな書の世界」を感じてもらえたなら!! そんな願いを胸に、日々精進・修行の私である。

この作品は平成26年玉松会展の出品作である。以前に訪ねたお宅の庭先に、まつ青な葉の陰から一際輝く柚子の鮮やかな黄色があまりにも美しく、心に焼きついた。その情景を思い浮かべ描いた作品である。2行目の渴筆を見せ場」とするため、1行目は連綿にて控え目でさりげなさを出した。そして余白を右上と左に大きくとることで2行目にインパクトを与え、自然で大らかな流れがより表現できるよう、心がけた。

特集：書道芸術院秋季展

書道芸術院秋季展

審査会員選抜作品
審査会員候補公募作品



会期 平成27年10月6日(火)～10月11日(日)

会場 セントラルミュージアム銀座

アートサロン毎日(推薦作家展会場・毎日新聞社内)

秋季展実行委員長

種 谷 萬 城

本年の秋季展は、「セントラルミュージアム銀座」(紙パルプ会館5階)を会場として開催した。昨年新装された白を基調とした明るい会場に、本院財団役員をはじめ、本年2月に開催された第68回書道芸術院展出品より選考された審査会員の選抜作家108名の新作。審査会員候補からの公募作品387点、

236人より厳正な審査を経た「秋季菊花賞」10名、「秋季俊英賞」40名の計50名。総計158名の作品が展示された。

更に「推薦作家展」を竹橋のアートサロン毎日にて開催し、審査会員を対象とした「書道芸術院春菊花賞」選考最終候補者の漢字部・生田翠龍かな部・勝山初美、現代詩文書部・横田汀華、前衛書部・宮崎芳玉、篆刻刻字部・佐藤香山の5名が、一人7m余の壁面に

大作発表を行った。

両会場にて開催した秋季展は、漢字・現代詩文書・篆刻刻字・前衛書の5部門を擁する総合団体である書道芸術院を代表する、将来を担う作家の作品発表の場として企画した展覧会で、意欲的な作品が会場に溢れていた。尚、審査会員候補の秋季展入賞は従来通り、本展の入賞と同等に、審査会員への昇格得点として評価される。

初日には表彰式、研究会が「銀座フェニックスプラザ3階」にて開催された。

研究会は、スクリーンに作品写真を写し、推薦作家・秋季菊花賞作家の作品制作意図発表、各部選考委員の助言、辻元大雲理事長の総括等で白熱し、充実した会となった。その後、銀座東武ホテルで、ご来賓をお招きした小宴を行った。

会期中の参觀者は、「アートサロン毎日」が500名。「セントラルミュージアム銀座」が1100名を数えた。



表彰式で理事長あいさつ

2015年 書道芸術院秋季展公募出品集計

部	出品点数	出品人数	秋季菊花賞	秋季俊英賞	落選
漢字	143	87	3	15	69
かな	17	17	1	3	13
現代詩文書	96	61	2	11	48
前衛書	127	68	3	11	54
篆刻・刻字	4	3	1	0	2
合計	387	236	10	40	186



大勢で賑わう懇親会



大盛況の推薦作家展

〈併催〉 推 薦 作 家 展

《生田 翠 龍》



〈琵琶行〉

236×530cm

《勝 山 初 美》



〈うれしくば〉

180×53cm×3

《佐 藤 香 山》

〈麟鳳龜龍〉

《宮 崎 芳 玉》



〈空〉

117×124cm



162×60cm

《横 田 汀 華》



〈木の根は〉

135×266cm

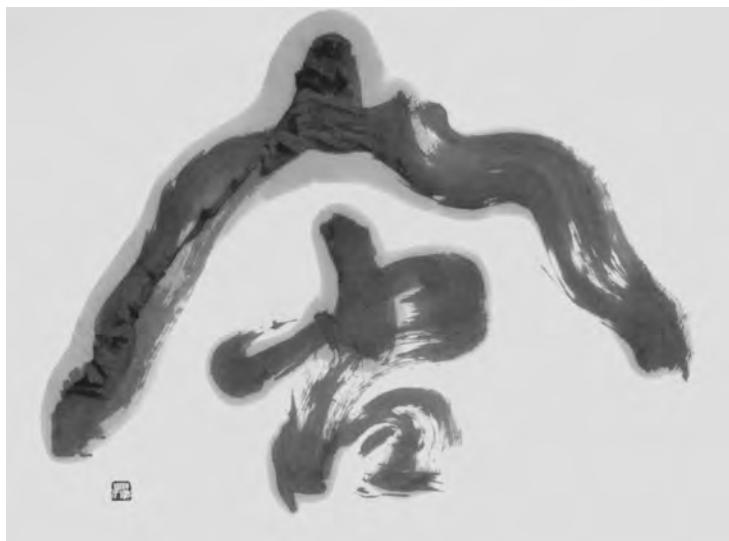
書道芸術院役員作品

（漆黒の）



（公財）理事長・常任総務 辻 元 大 雲 66×146cm

〈含〉



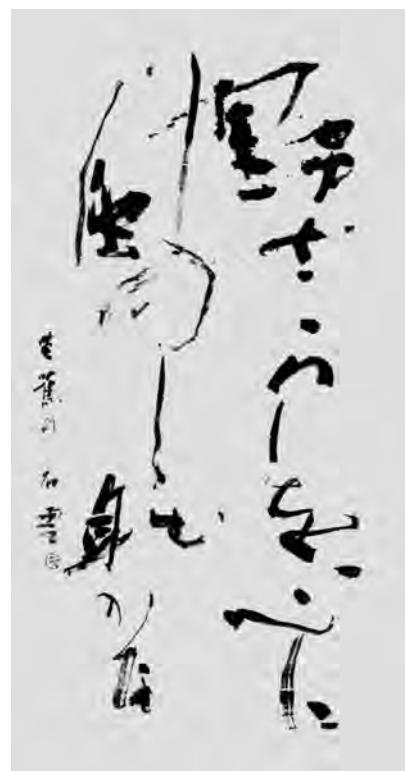
(公財) 常務理事・常任総務 大野祥雲 91×121cm

〈白雲が〉



(公財) 常務理事・常任総務 下谷洋子 86×90cm

〈野ざらし〉



136×70cm

〈雪に立つ竹〉



常任総務 飯沼 恵鳳 54×180cm

〈思い出〉



常任総務 出原 悅柳

180×61cm

〈待宵〉



常任総務 倉林 紅瑠

110×80cm

〈非礼である〉



常任総務 大隅 晃弘 68×143cm

〈水の滴〉



常任総務 大平 邑峰 60×180cm

〈蜃氣樓〉



常任総務 阿部 翠麗

182×61cm

〈争〉



常任総務
北村白琉

180×60cm

〈断捨離〉



常任総務 大内熒軒 85.5×115cm

〈母のねがい〉



常任総務 国吉真雲 53×177cm

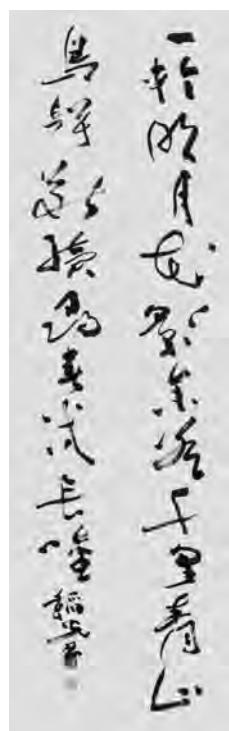
〈俳句〉



常任総務
布施瑞弘

150×70cm

〈陸絶句の語〉

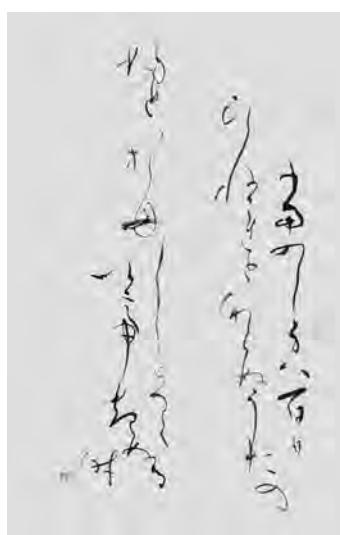


常任総務 児玉韜光

182×61cm

〈樂しみは〉

常任総務 小島孝予



105×70cm

〈英〉



常任総務
高橋小汀

180×60cm

〈霧ゆく〉



常任総務 齊藤理舟 70×145cm

〈いのり〉



常任総務 千葉紅雪 73×140cm

〈秋〉



常任総務 白石和楓 67×146cm

〈藤田湘子の句〉

常任総務 田中梨梢



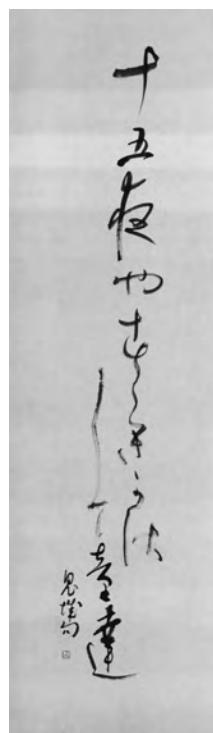
120×90cm

〈昴〉



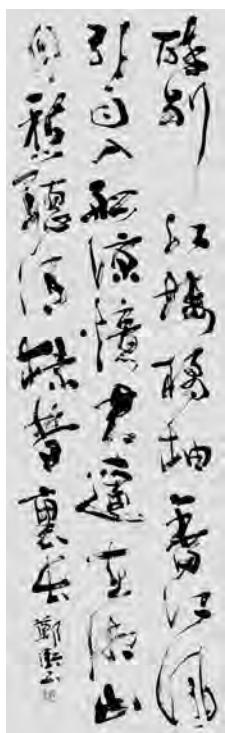
常任総務 知野洛水 91×121cm

十五夜



170×50cm

全昌臨詩



175×53cm

常任総務
和氣しげ代

Hibiki
響



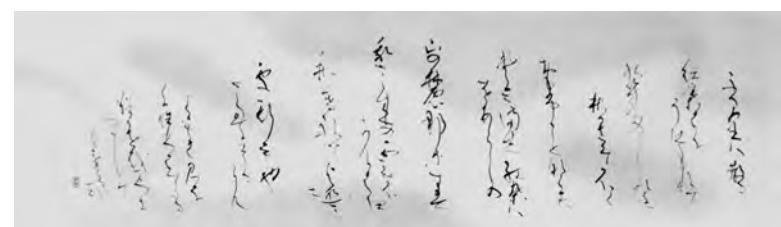
常任総務 真下京子 105×105cm

臨鄭長猷造像記



総務
西川翠嵐

古里



総務 九條純代 52×180cm

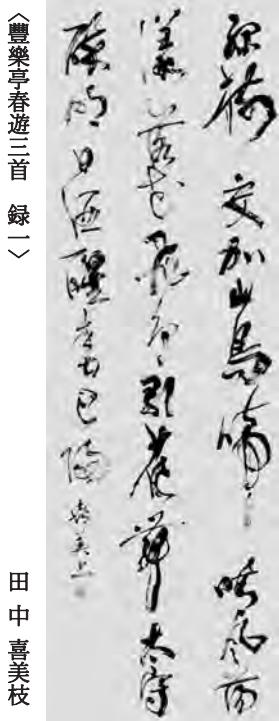
岬



総務 川村美泉 90×120cm

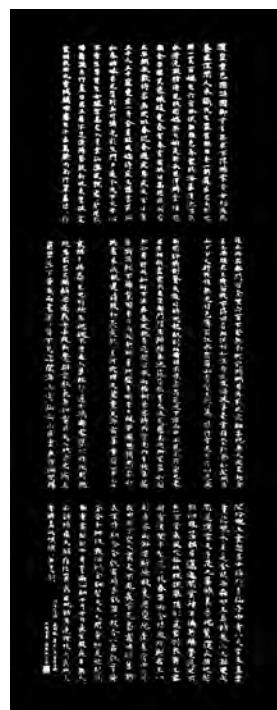
審査会員候補

秋季菊花賞



田中喜美枝

165×53cm



篠原楊流

136×52cm

179×58cm

治田芳江 53×182cm



音羽山



地藏さま

大野清玉 70×138cm

禹廟

生田珠翠



179×58cm

長恨歌

篠原楊流

136×52cm

179×58cm

治田芳江 53×182cm

音羽山



地藏さま

大野清玉 70×138cm

審査会員候補
秋季菊花賞

〈能登の海〉



田澤館楓 73×138cm

〈無〉



須藤彰仁

174×60cm

〈的〉



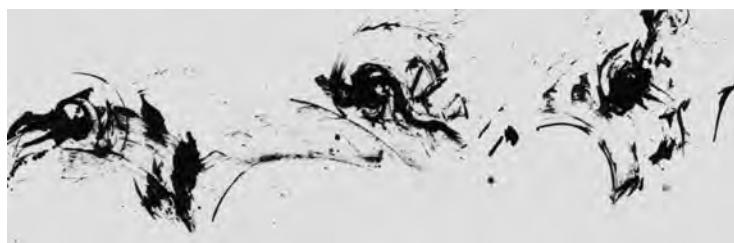
遠藤紅杏 61×182cm

〈水清無大魚〉



田代明眸

〈虹〉



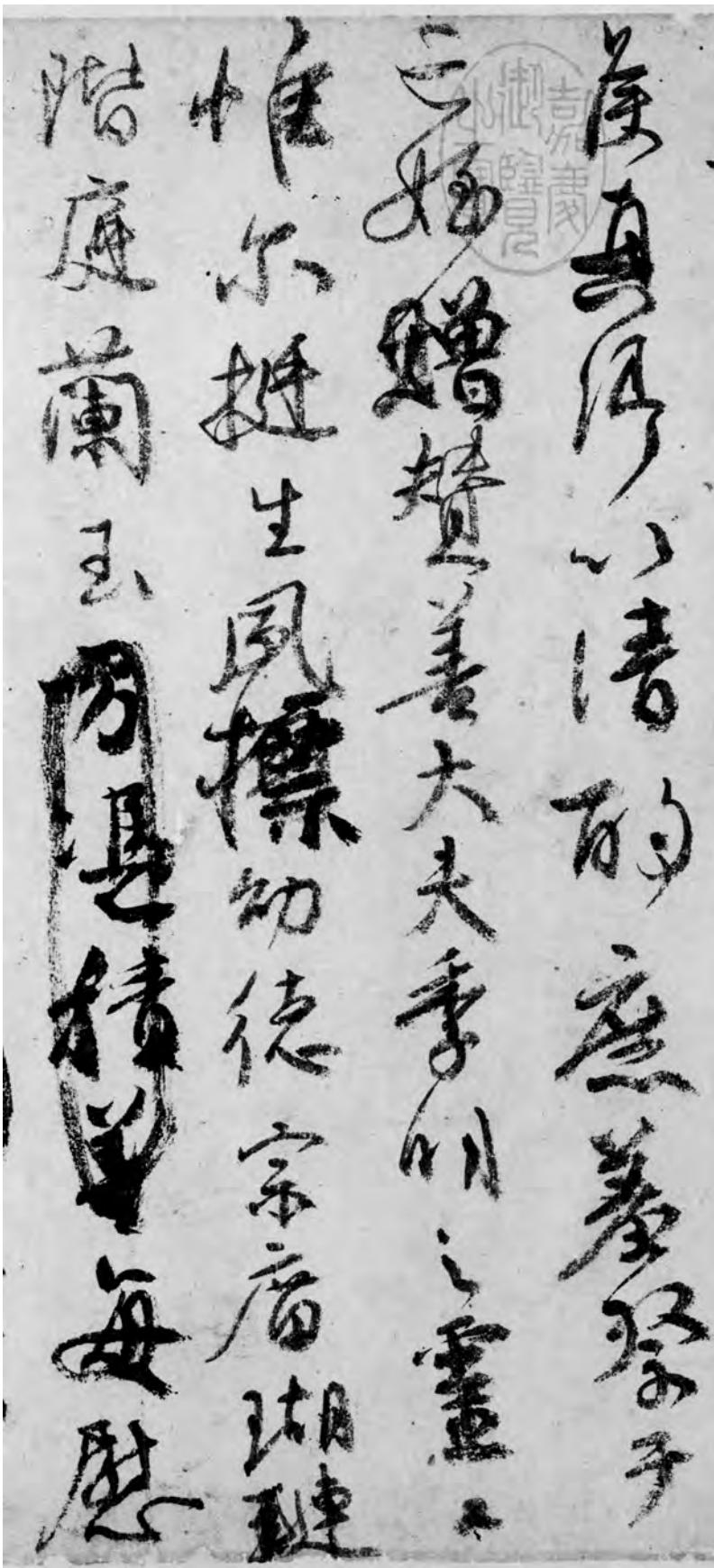
畠中成山 60×180cm

152×49cm

祭姪文稿（顏真卿）②

特別研究部臨書課題

II (毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 左記の法帖より何文字臨書してもよい。
当該古典の左記掲載部分以外も可。



(80%縮小)

侯真卿。以清酌庶羞。祭于亡姪贈贊善大夫季明之靈。曰惟爾挺生。夙標幼德。宗廟瑚璉。階庭蘭玉。每慰

〈解説〉祭姪文稿には、篆書の用筆が根底にある。起筆（始筆）は筆先をつつみかくすようにして、筆先を出さずに入る藏鋒、また送筆は線の中・心部を筆先が通る中鋒が多用されている。

この書の特徴は、草稿であるため、修正や加筆、抹消などが見られるが、改まった感じや、てらいのようなものがない。ほとばしり出る心情のままに、自由奔放に書かれている。また、線質は重厚で

粘りがあり、運筆も筆圧が強く、懷が広い。

祭姪文稿は肉親を失った悲しみや憤りの感情の趣くままに書かれた率意の書である。前半では思いを内に秘めて重厚に、後半では高まる怒りを抑えることなく筆を走らせていている。最後の数行には特にその感が深いものがある。

(編集部)

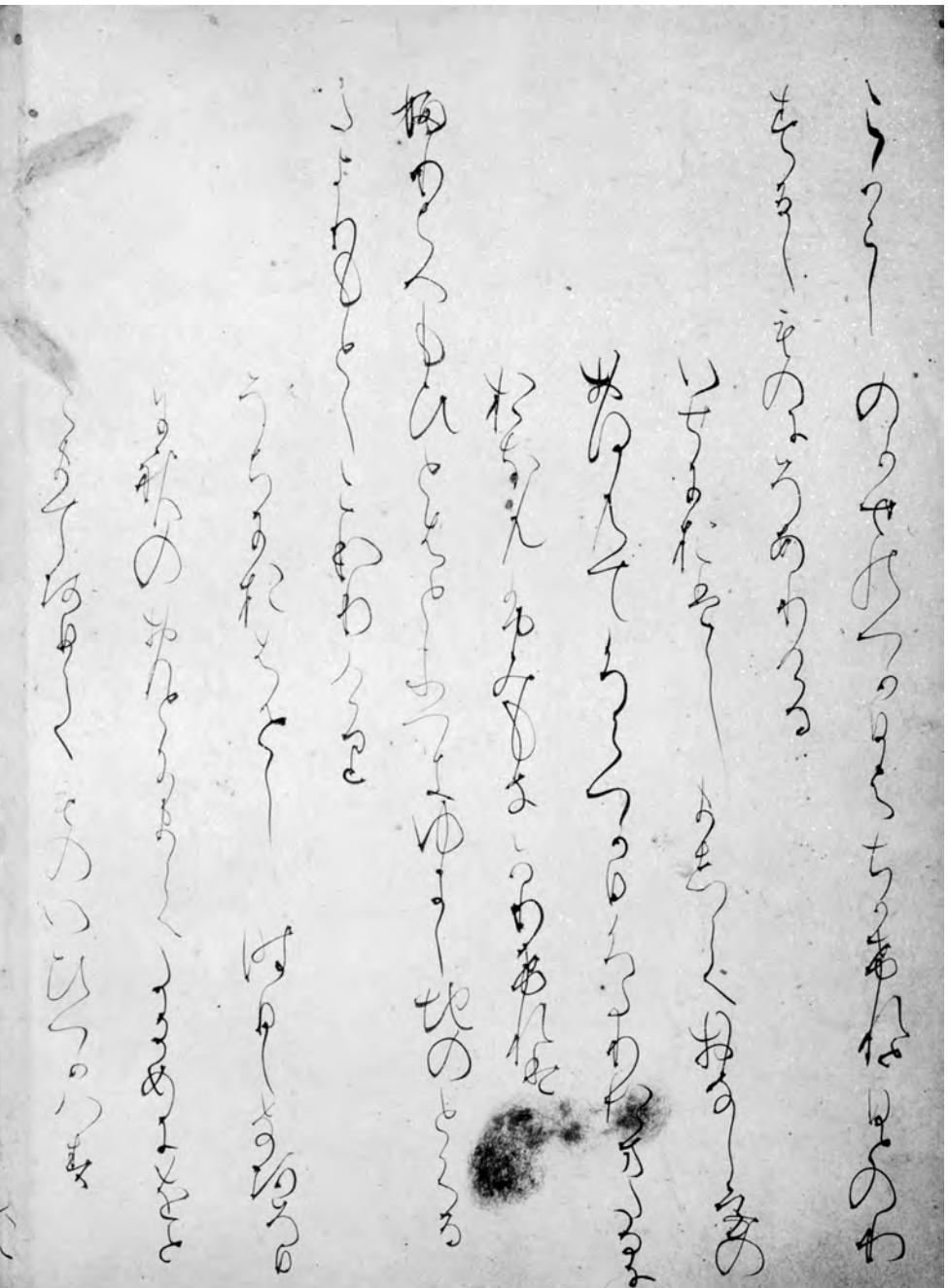
※落款を必ず入れる
署名、もしくは
○○臨
(押印のみも可)

※落款を必ず入れる。署名、もじくば〇〇臨（押印のみも可）

特別研究部臨書課題

（半紙普通判（料紙可）・縦長に使用）
別紙を裁断して貼付も可。半纏紙は半紙サイズに切って使用のこと。

左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。（全臨も可）



よみ

こがらしのかぜのつかひはちかけれどひとのわ
するゝものにぞありける

いせにおはしまして、おなじ富の
おほむてくらつかひくだりたま(ひ)たるに、

おほむふみもなかりければ
おほむふみもなかりければ

ふりはへもひとほどぶべきゆきうちのとくろ

たよりもとゞこほりけり

うちにおはせし時、ひくなあそび

に神のおもとにま(う)でたる女に、をと
こま(う)であひて、ものいひつかはす

（解説）小島切は、穂先のよく効くやや長めの筆で書写された。線は細く、繊細流麗であり、緩急抑揚の変化に富んでいる。また、さまざまな連綿の姿がみられるが、特に漢字とかなの連綿は両者が見事に調和して美しい。

さらに、大小の文字の調和、行のうねりや墨継ぎの巧みさ、余白の美しさなどが小島切の特徴である。

小島切の書風や筆致は、伝小大君筆「香紙切」や伝源道濟筆「小堀切」などに類似している。

（※掲載図版は80%縮小）

（編集部）

習い方解説 (二)

大野祥雲

自淨其意
(出曜教)



書体=自由

煩惱、妄想、取捨分別の小さか
しい思いをぬぐい去つてしまふこ
と。

「自」1画め以外は縦画、横画で
構成。各線の変化と接筆に注意し
た。自己の自己、しっかりと書きたい。
「淨」さんざいを力強く書き、余
白を十分とつて旁へ。筆の開閉を
利かして息長く運筆。最終画は全
体を引き締める線。

「其」2本の横画、縦画がそれぞ
れ向かいあつていて。各点画の大
小、長短、接筆などを考えて筆を
い線にした。

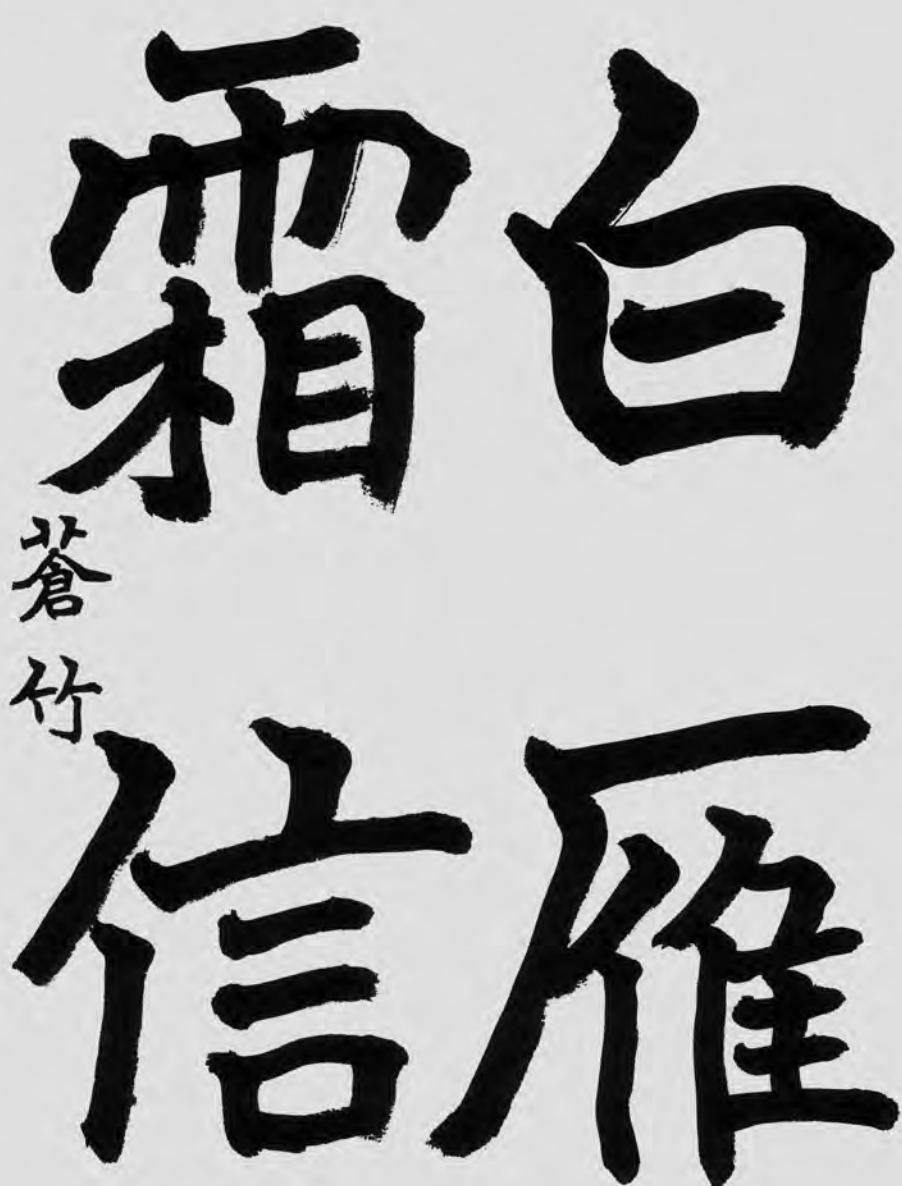
自淨其意 よみ (自淨其意)

習い方解説 (二)

名 越 蒼 竹

白雁霜信
(古今詩話)

(古今詩話)



書体＝楷書

2回目は鄭道昭の書風を参考にしました。特徴は文字の構えが広くゆったりとして、線に摩崖碑独特のゆがみや粘りがあることです。刻字された当時は鑿の跡がくつきと残り、いわゆる北魏造像記の方筆と同様な雰囲気だったかもしれません。今拓本から私たちが受ける感じはそれとは全く異なります。

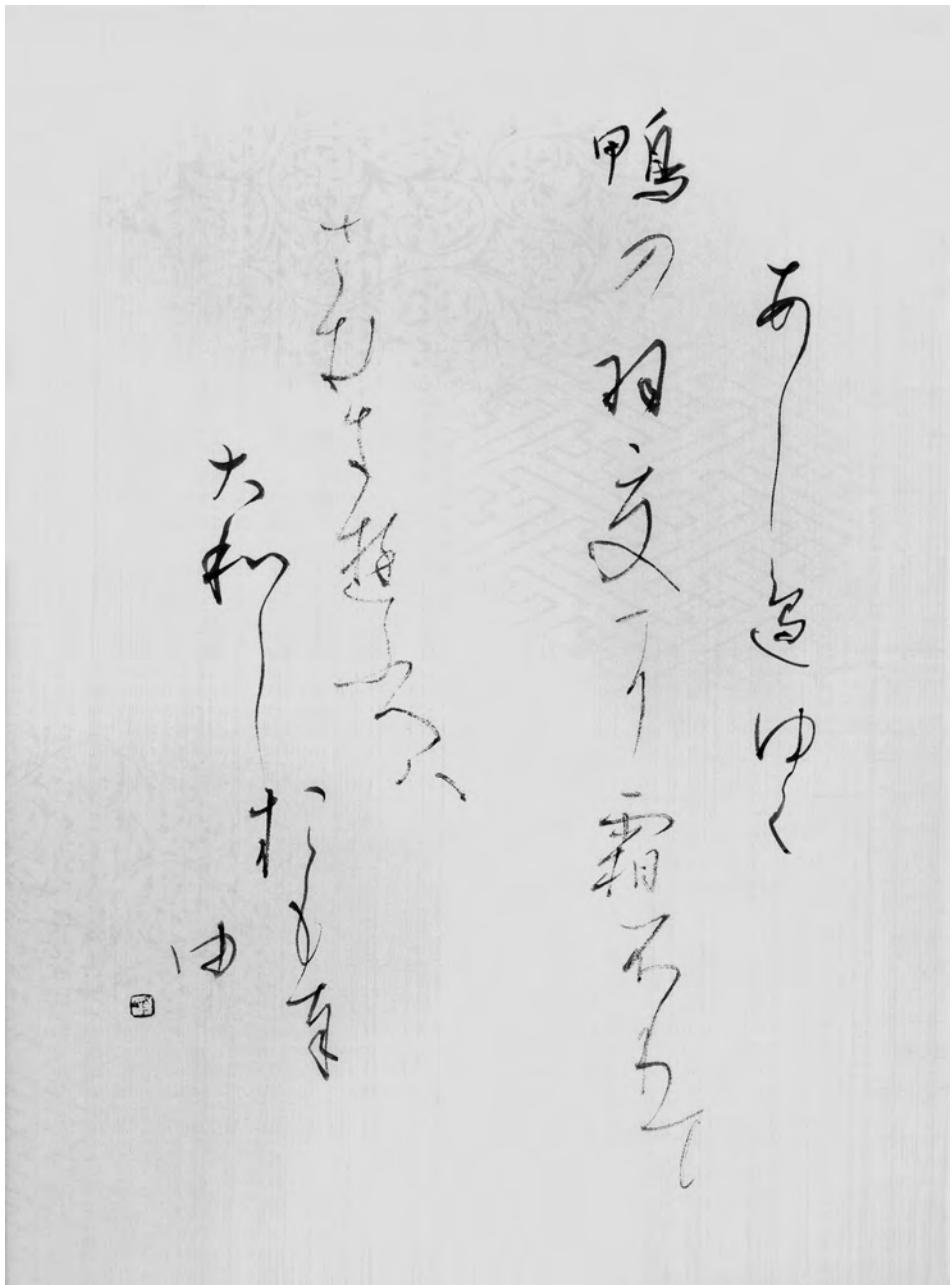
実際に鄭道昭の臨書をする時には、多少方筆の個所も加えたほうが伸びやかさと力強さを表現できるので、私の作品にもその要素を少し加味しています。運筆は力を込め、スピードを落としつつゆつたりと行うことが大切です。

習い方解説 (二)

平川峰子

かな
邊ゆく
鴨の羽交に霜ふりて
さむき
夕は大和し思ばゆ
(万葉集・志貴皇子)

平川峰子



創作

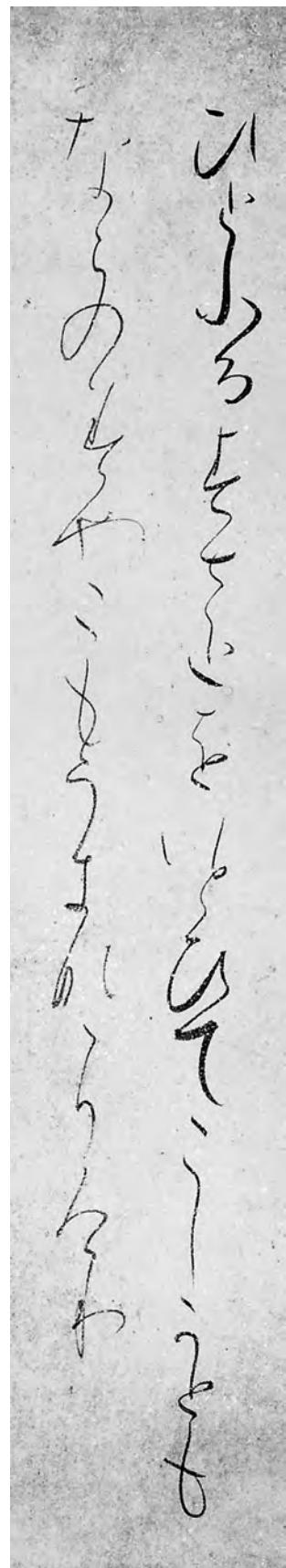
かな半紙の創作は、まず墨継ぎをどこですれば良いかを考えます。この参考手本は大和で墨継ぎしますが、そこまで続かないときは2行目の不^トで継ぐと良いでしょう。なぜならば、霜は渴筆でなおかつ少し大き目の方が美しいからです。次に漢字を変体がないに置き替える場合、鴨・羽交・霜・大和などは工夫することで良い創作作品に仕上がると思います。書き出しのあしを章の漢字に置き替えて良いでしょう。その場合、字典で調べてかな作品に合う字形を探してください。

よみ方
あしへ(邊)ゆく(久)鴨の羽交に(耳)霜ふ(不)り(利)て
さむき(支)ゆ(遊)ふべは(八)大和しお(於)も(毛)ほ(奉)ゆ(由)

かな規定 秀級以下【十二月十日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全體、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切第三種
(掲載写真縮小93%)



よみ方 ひとふるす(春)さとをいとひてこしか(可)ども
ならのみ(美)やこもうき(支)な(那)よりけ(介)り(利)

かな条幅規定【十二月十日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

天海矩子選書

習い方解説 (二)

天海矩子

うす日さすあづさの紅葉しかすがに
今かくるらむただよふ天雲

(伊藤左千夫)

横形式はバランスが難しいので
行書きの場合は、まず中央あたり
にポイントを置く事にして、書き

出しはやや小さめに、中央で潤筆
の字少し大きめにし、後半は徐々
に沈めるように書く。
「しかすがに」は、さすがにの意味

*よい形式に限る

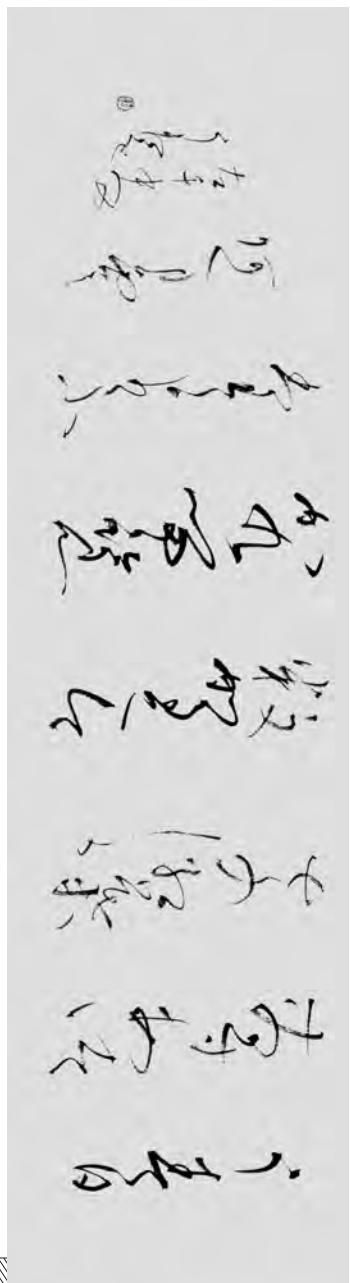
よみ方 うす(春)日さ(散)すあづ(徒)さの紅葉しか(可)す(数)が(駕)に(1)

今かく(九)る(留)らむ(覽)た(掌)だ(ハ)よふあ(阿)ま(万)雲

左千夫のうたを

創作

出品券
貼付位置



漢字条幅規定 初段以上【十二月十日締めきり】用紙 小画仙紙半切

辻元大雲選書

習い方解説 (二)

辻元大雲



今宵碧海波心月

(今宵碧海波心の月、
応に到るべし詩人枕上明らかなるに)

書体=自由

前回の七言絶句の後半です。秋の情景を、海上に浮かぶ月の光を感じつつ詠んだ句です。
平易な行書に少し連綿を取り入れ、筆脈の流れよく書いてみます。書体はいろいろ変えられます。
草書を取り入れるのもいいと思いますが、誤字などに気をつけましょう。いろいろ工夫してみてください。

*たて形式に限る

習い方解説 (二)

坂本素雪

漢字条幅規定 秀級以下【十二月十日締めきり】用紙 小画仙紙半切

坂本素雪選書



書体=自由

多くの木にみちた夕陽の影に鳴く鳥の声はさびしく、庭一杯にさす月の影は涼しく花影は深いもの意。

七言対句14文字の手本です。ボッチャリとした行草体です。空間を美しく表現することを中心掛け、1文字1文字横広の字形にして筆圧をかけてドッシリと書いて下さい。下部は画数の多い字が並びましたので墨量を少々控えめに。

夕陽千樹鳥聲寂 涼月一庭花影深
(夕陽千樹鳥聲寂たり、涼月一庭花影深し)
(李絞)

習い方解説 (二)

小伏小扇

吾日に吾が身を三省す

人の為に謀りて忠ならざるか
朋友の交りて信ならざるか
習わざるを伝うるか。

論語学而第一 小扇書

文字のくみ立てに注意しながら書いてください。

課題は、論語学而第一です。

論語は、江戸時代に藩校や寺子屋で盛んに読まれていました。
日本人の豊かな感性や強い精神力の拠り所となっていました。

意味は、

私は日に何度も自分の行いを省みて
いる。人の相談相手になって、真心を
尽くしていかなかったのではないか。友
人と付き合って嘘をつかなかつたか。
自分が充分に、まだ理解できていない
ことを、人に伝えたり、教えたりして
しまつていなかつたか。

※落款を必ず入れる。
(自分の名前を入れること)

書体=自由

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

今月の

ホープ作品 各部総評

No. 653

ペン字部 師範 鶴田 恵子

温和な楷書と平明なかなが見事に調和した秀逸作。優美で明るく穏やかな紙面を醸し出している。

◎ペン字部総評 漢字とかなが調和し、美しい作品が多かった。硬筆の用具用材も十分吟味し、精良のものを選んではいい。（紅瑠評）

前衛書部 特選 川島 桂子

渴筆を主軸に潤渴を巧みに組合せ、遠近感と広がりを見せたエネルギッシュな作である。

◎前衛書部総評 作品への情熱と斬新さが見られた。作品に比例する印の大きさ選びたい。（蓮紅評）

現代詩文書部 特選 小野寺久美

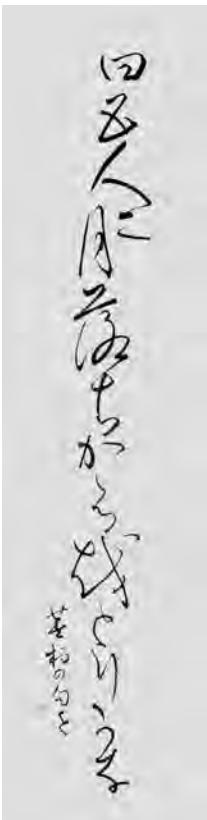
大胆な作品だが、基本が出来てるので重厚感がある。文字の造形、余白の取り方が優れている。

◎現代詩文書部総評 詩文書は字並べに終らず、作品になるように表現のこと。（梓江評）

かな部 師範 橋本 紅霞

抑制の利いたしなやかな運筆が作品を大きく立体的に見せている。巧まざる老練の底力は深遠です。

◎かな部総評 参考手本への依存過剰は残念。創作の自由を目指すこと。針金状の線も散見。かなの豊かな線を熟視のこと。（明子評）



漢字条幅部 師範 宮澤 萌秋

参考作品と異なった構成に挑んでいることがこの作品に魅かれた一つ。横形式への工夫が見られる。

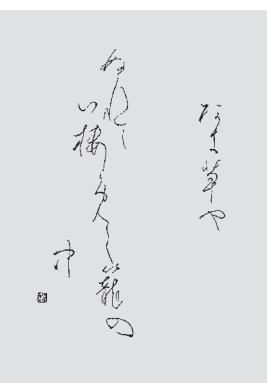
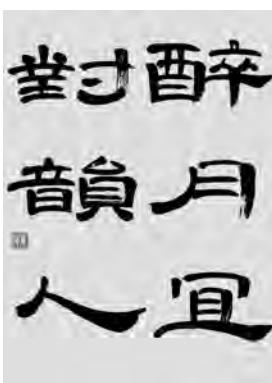
◎漢字条幅部総評 秀級以下は字数多く戸惑つたかも。初段以上は横作品を楽しんでいるように見受けた。（翠風評）

◎漢字部 総評 上級者は文字表現は書体も多彩で楽しく取り組んだい作。隸書の筆法をマスターし、技術の高さを見せて妙。

◎漢字部 総評 上級者は文字表現は書体も多彩で楽しく取り組んだい作。隸書の筆法をマスターし、基本を大切にしたい。（大雲評）

かな条幅部 師範 宮澤 萌秋

バランスよく丁寧に書かれ好み。ばかりの美しい料紙なので、墨量を工夫されると一段と映える。◎かな条幅部総評 解りやすい手本のためか誤字は少なかったが、大小や太細の把握が難しい様子。名前か印は忘れずに。（洋子評）



かな部 師範 橋本 紅霞

今月の

特別研究部優秀作品(特選)

かな (松延) 藤原三枝子 「降る雨」



176×52cm

藤原三枝子書

◆大字がな創作の基本である余白の取り方、潤渴、大小の配慮が備わった作品に仕上がった。
(洋子評)

◆潤渴のしつかりとした筆致で広がりのある構成で雄大な作となつた。字形の大小もありメリハリがある。
(大雲評)

◆流れ濃淡ともに良く特に2行

目の潤渴は秀逸である。かなは七色の墨彩を出すと言われるがまさに変化がある。
(蒼玄評)

◆三角構成で上部から一気に書き上げた。墨色潤渴も良いが上部はもう少し墨量とにじみがほしかった。
(蒼玄評)

◆清淡墨の美しさ、にじみ、飛沫見事に調和。張る筆力、ダイナミックで躍动感あふれる作品となつた。
(紅瑠評)

◆飛沫の使い方墨色とともに手なれた作である。細い筆の瞬発力から生まれた線は輝きがあり冴えている。
(大雲評)

臨書

(大雲)

小川白舟

「枯樹賦」



175×55cm

小川白舟臨

前衛書 (秀惠) 阿部雅悠 「飛泉」



181×60cm

阿部雅悠書

◆褚遂良の作風を羊毛の柔かい筆で良く臨書している。ゆつたりとした表現は柔かさと品位を持っている。
(大雲評)

◆枯樹賦の柔らかな線を羊毛で表現して見事である。字形は少々ゆがみがほしい氣もするが統一感がある。
(蒼玄評)

◆磨墨による墨色が美しい。褚法の藏锋での繊細な表現と潤渴とで、上質な作品となつていて見事。
(洋子評)

◆羊毛筆を巧みに使い、潤渴の変化、粘りある線条見事。文字空間も明るく格調高い臨書作品となつた。
(紅瑠評)

臨書 (宗苑社) 茂木絢水

「和泉式部続集・上巻切」

部分拡大



136.5×35cm



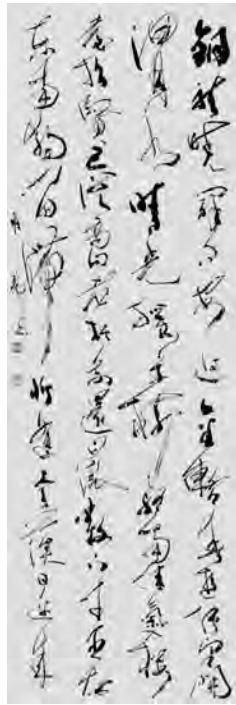
茂木絢水臨

◆古筆を理解し、気持ちの乱れなく、誠実な姿勢が伺える。墨色の変化も有り、日本文化の品位を感じる。

(洋子評)

◆古筆を理解し、気持ちの乱れなく、誠実な姿勢が伺える。墨色の変化も有り、日本文化の品位を感じる。

漢字 (惠雅) 板橋雅邦 「賈曾詩」



181×60cm

板橋雅邦書

◆縦の流れのような線で一気に書き上げて見事である。濃淡大小もしっかりと字形は動き過ぎか。

(大雲評)

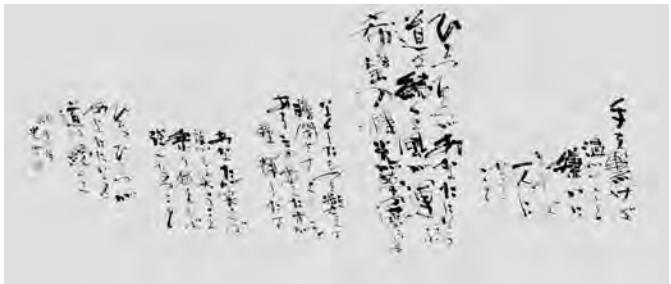
◆鋭いリズムで動きすばらしい。3行目がやや単調になった感あり、墨の入った字をもう少し入れては。

(洋子評)

◆流れは良いが1字1字を見るに造形にかなり無理所がある。大小の必然は動きから生まれることを念頭に。

(蒼玄評)

現代詩文書 (白珠) 高村光霞 「絢香の詩」



60×140cm

高村光霞書

◆軽快な筆致で細い鋭い線が目に鮮やかである。構成も群を作り定石だが群のつながりは今一步である。

(大雲評)

◆物語りを書くように起承転結をはっきりと表現している。中央部のもり上りは良いが前後は一考を要す。

(蒼玄評)

総出品点数
86点

(特選候補者)

漢字——5点
かな——6点
現代——20点
前衛——15点
篆刻——2点

臨書の部 (38点)
漢字——4点
かな——4点

蓮紅	かな	澄春	漢字	白珠紅	卯月新谷	游水荒川	空華	「かな」
千葉	漢字	地	香書の部	蓮前衛	八街熊谷	嵐泉		「かな」
大雲	英峰	樹原	香書の部	蓮前衛	八戸市川	桃華		「かな」
森	竹浪	佐藤	香書の部	蓮前衛	大拙畠中	もく西川藤象		「かな」
大雲	翠	佐藤	香書の部	蓮前衛	吉田坂本	藤象		「かな」
名	東平	佐藤	香書の部	蓮前衛	東実	游水荒川		「かな」
佐野	藤	佐藤	香書の部	蓮前衛	八戸市川	嵐泉		「かな」
華	麗	希美	香舟	蓮前衛	大拙畠中	桃華		「かな」
紅	遊	桂	香舟	蓮前衛	吉田坂本	もく西川藤象		「かな」

漢字研究部
(枯樹賦)

選評 小浜 大明

今月のホープ作品



河野 野 虚 拙

漢字研究部 特選 河野 虚拙
運腕大きく、筆脈もつながり、故にリズム
が生まれています。余白も明るく、細線なが
ら強く響きのある線に魅力を感じます。又、
用筆も確かな秀作です。ただ落款の位置に一
考が必要かと思います。

◎漢字研究部総評

今回も多数の作品が寄せられましたが、全
体にレベルが高く、以前の様な誤字のある作

品はありませんでした。しかし、用筆におい
て無理のある作品が目につきました。解説に
「俯仰法は、起筆でいったん筆管を左へ倒し、
右に進むに従って進行方向に筆を倒す。」と
あります。ですが、その意味を正確に理解されてい
ないと思われる作品も少なくありませんでし
た。この筆法は前の画から続く「空筆」を切
らずに書くことも大切だと思います。



紫紅白理初邑
玉雨杜扇江里

里博み美友華
祥美え保里惠

翠澄千彩椎愛
雪子子葉菜香

活春香久晴菊
実子燁惠江枝

かな研究部 (和泉式部続集上巻切)

選評 庄司紅邨

今月のホープ作品



飯高幹生

◎かな研究部総評

書き手の特有なリズム感を良く捉え、ぐいぐいと書き進み、和泉式部続集切の雰囲気を見事に表現できました。心情や線質への配慮も見事です。

転折がはつきりしている部分が多いのですが、表現が難しかったかと思われます。形が似てもさらにテンポや筆の入りまで神経を使って欲しいです。

かな研究部成績表



洋真美

良愛愛

洋春雅

翠竹里

子紀艸

泉石華

子華泉

陽葉美

かな研究部	特選	飯高	幹生
澄陽うNや華大 春陽るHま祥阪秀	も松高高こも大京宗玉 千こ東蒼竜石千有澄竜 く村井陵だく雲橋苑松 葉だ伯陽泉習葉秋春泉	こ大惹う 書	
植岩今伊伊板生 田崎閔藤東垣駒 富陽心良京青萩 枝光華佑子鳳花	青阿櫻會梅新磯吉茂小鈴菊宮山込後松渋石宇高加黑坂飯 木久田木原井貝田木川木地川本山藤丸谷川川 澤	特選	
連華子介祥雪耀子水香心峰子紀艸泉石華子華泉陽葉美生	藤和勇虹藤清佑絢羽睦泰洋真美良愛愛洋春雅翠竹里幹 連華子介祥雪耀子水香心峰子紀艸泉石華子華泉陽葉美生		
玉松佳	I 穂竹硯澄A澄前京正玉澄生も一大上生玉や上紅澄 Aた千幕生秀大清 露S韻扇水春雲I春橋橋華川春大く宮雲泉大松ま泉瑠春 Iか葉張大水阪月		
青木作	渡六吉山宮増堀藤深春春林野浪農戸鶴塚塚田田高須新清河河北菊門小江 辺本川村澤田切村堀山岡 中川田部田本村中玉草田行水野村田池脇野田 喜		
葵郷	八木重弘幸炎草華幸昌清勝聰美喜秋翠藤雅雅え春耶哲代香満紀白惠惠善信萩茂 子江惠秀秋秀雲子洗美春子花玉風呂雲子華衣子舟子董子舟高子光夫		
大竜紅阪泉鑑入	東昌無華華調長生華蓮紅長正した秀玉青正上秀春竜若正一正松た硯竜正英彩竜樹正上た澄誠竜A八岩正椿 実苑門祥仙布月大仙紅風月華か水松蓮華泉水汀泉松華弦華村か水泉華峰 泉原華泉か春和泉 I戸沼華翠		
天浅藍羽川澤多みな白郷	吉吉山山武增牧前本福平東浜花長沼永中富渡土菅實渋柴鹿猿佐櫻木吉岸加葛加大梅字入今伊市石石安足青青 田中崎口藤田野川田田山田野里谷田井村澤子谷沢川谷田渡々田原瀬田藤瀬津井谷村藤川崎川藤立木木 万さ川シ理ま百木世木知美		
弘硯八舟生葉苑	眞翠清桜雪蕙佳清栄美里だ敏永智千奎宏ゲ蕙紀つ合仁堂洋志簾龍輝彩東龍惠日淑代楠悠貴寿紫正津代万玉松 理綾玉江翠壁子次子雪子董子峰心枝子子江美江右方貞子雨子惠美夏江子子麗花泉子泉子孫枝子透枝月		
弘硯八舟生葉苑	高澄や菊翠高椿奥大高大蘭N汐附若う高生梓蘭福竹大秀苑伏蕙こ高A東誠大澄玉澄千石硯正誠八誠書こ生 葉苑		
渡柴篠塩坂酒酒齊齋斎近小小小小高久国工木北北川川河河加小小大大梅生薄鶴岩岩今井猪犬伊伊市石石石五新 田崎雲卷井井藤藤藤峰林林澁景保峰藤村元又崎崎岡合納野熊内石山田澤根瀬井野又銅藤川渡崎川十井 由			
芳高も蓮調高や玉椿玉蘭竜もあ紅春菊玉白幕高泉前竹生澄千や大洞は麗高遊一北泉一玉耕千 大た大幕た澄華香土書光 遷蘭井く紅布陵ま川翠川鼎泉くか苑汀月川露張崎会橋扇大春葉ま雲書せ澤岐陵雲心原会草川雲葉』阪か阪張か春仙月氣游昭 外148			
渡吉吉遊行山山谷安森森森森本茂富宮漢松松北別船藤深平日濱長根丹西仁永中中戸富徳樋田高高鈴鈴杉庄嶋 名氏名略	田崎佐平田口知鳴本 田田吉木野崎村島浦條府津本澤山田高谷津羽澤岡木田村澤井村田田泉中橋野木木田司 裕眞妃登川美		
藤紅良明律美妙悦直龍藤明真美陽翠玉靖信裕喜佳彩美右竹久 飛恵彩弘光時一 弘博萩萩雪良賢恵杏智香祥咏由 信溪か玉雅江子子子子博谷香蘭枝明子子舟江子子扇蕙月華和真雪子翠龍子峰子室子琴綾枝舟彩峯董子雲泉華蕙生風軒			